

令和6年度 第1回美術館運営協議会会議録

1 日 時 令和6年8月22日(木)

午後2時00分～午後3時10分

2 開催場所 豊田市美術館 展示室9(ギャラリー)

3 出席者

〔委員〕

鈴木早紀恵 岩田雅子 佐藤陽子 正村美里 高橋綾子 加納里美 平野敬一 茂木明子
山田百合子 (以上9名) 欠席:吉留亜弥

〔事務局〕

森泰通

高橋秀治 田境志保 北谷正雄 塚田恵理子 鈴木俊晴 成瀬美幸 大原右子 大柳良輔
(以上9名)

4 会議の経過

委嘱状交付、館長あいさつ、委員自己紹介、職員紹介の後、事務局から豊田市美術館運営協議会の概要について説明した。

その後、委員の互選により、会長に正村委員を選出、会長が高橋委員を職務代理に指名した後、会長あいさつ、その後、議事録署名人として、会長自らを含む2名(高橋委員)を指名した。続いて、令和5年度の実績を報告した後、各委員より意見を聴取した。

5 会議内容

事務局

(1)令和5年度開催展覧会の実績報告について

年報No.28(令和5年度)及び「未完の始まり:ヴンダーカンマー」展開催実績を用いて説明した。

委員

昨年度を振り返ると、大変教員も子どもたちもお世話になったと感じている。この美術館が素敵だということをもっとアピールしたい。昨日、愛知県内の美術教員が集まる大会があった。その大会で鑑賞学習の発表があったが、他の市町だと、アートカードやタブレットなど小さな画面上で作品鑑賞を行っている一方で、豊田市では、子どもたちが実際に豊田市美術館に来て、本物を見ながら、本物の感動を味わいながら鑑賞できている。その素敵さを、教員を含めて豊田市の自慢であることをもっと知ってほしい。

小学6年生と中学2年生の鑑賞学習を続けており、昨年度は実績が少なかったが、今年ももっとたくさん来館する予定。この美術館学習をこれからも続けてほしいし、これがきっかけで保護者と一緒に来た家族もいる。

一方で、こうした事業を運営していく中で、学芸員やボランティアがどんどん多忙になっている。豊田市博物館には教員の配置がある。美術館にも同様に教員が配置されれば、当初学習プログラムを作成した時に一番実現したかった、子どもが質問に答える鑑賞学習ではなく、子どもが主体的に見つけた発見をもとに話し合うタイプの鑑賞学習に教員が参加することで、チームティーチングでの学びとなり、子どもたちをもっと活躍させることができると思う。

会長

豊田市美術館では教育普及の業務は担当学芸員が担っている。市立の美術館で教員の配置があるところはあまり無いように思うが、豊田市博物館とは人員配置について扱いは違うのか。

事務局

今後、美術館のスタッフ体制が充実するように人事当局へ働きかけていく。

委員

展示はもちろん、ワークショップに興味がある。大池で水切りのようなイベントを実施する際、施設を管理する立場としては、建物を傷つけないことに注力しがちだが、魅力的な大池で石を投げるイベントを行うとは思ってもかけなかった。申込不要で参加できる。しかも水切り世界チャンピオンを呼び、ただやってみるだけではないワークショップになっている。思いがけない体験ができるという楽しさがあった。

会長

美術館で行うイベントの許容範囲の広さを感じた。出品作家と連携したと思うが、運営側は実施していかがだったか。

事務局

開催時間帯が長かったので、ふらっと見て面白いことをやっているからのぞいてみよう、参加してみようという方も多かった。美術館の普及の面で成功したと思う。施設管理の面では、石が思わぬ方向へ飛ばないために、出品作家が当日の運営補助として大学生を集め石が池の外に出ないように対策をした。

会長

英断だと思う。なかなか出来ることではない。

委員

実績報告を見て水切りのような楽しいことをしていたと知り、参加したかった。作品を見るだけでなく触れる、体験する等の展示の仕方を知ることができ、美術館の魅力を知ることができた。

お茶室の和菓子も1つの店舗ではなくいろいろなお店から仕入れている。食べるのが大好きなので体験したい。

委員

年報及び「未完の始まり:未来のヴンダーカンマー」展の実績報告から、膨大な量の広報実績があり、庶務・学芸担当で協力し、画像の貸し出しなど多くの事務量をこなしていると感じた。広報に関して、実績報告に「広報戦略を調査する必要がある」というまとめがあるが、最近では新聞に掲載するということの価値が低くなっており、会期が始まると同時にたくさんの写真が載った記事がインターネット等が出たり、特に Tokyo Art Beat などはタイアップすると長文のインタビュー記事が出るなどいいことづくめに見える。しかし、学生を見ていると、意外にも記事を見て満足してしまっていたりする。鑑賞するつもりでの展覧会は良いが、迷っている展覧会だと、インターネットで詳細な記事を見てしまうと、遠方から電車代をかけてまでと思うと行かなくなることもある。広報戦略として、チラ見せするところと詳細にディープな見せ方をするという次のステップが必要。せっかく展覧会に行くなら評判が良いものを見たい、という考え方が広い世代に浸透してきている。広報をどうすべきか、プロモーションサービスとして専門化していくことが職員に必要な力である。学芸員と庶務担当だけでメディア広報という最先端の業務をこなすことは負担が大きいのではないか。先ほど、教育普及の観点からも専門的な職員が必要との意見があったが、プロモーションも同様である。

たくさんの記事が掲載されていてすごいとは言い切れず、これからの人材育成が課題。学芸員は専門性を高めることが求められるが、それに加えて、現状の仕事に加えて他の能力も望まれていると思う。

会長

教育普及や展覧会のプロモーションに専門家を立てていく時代かと思う。

委員

「未完の始まり:未来のヴンダーカンマー」展の時に、豊田市博物館のオープンがあったので TCCM でシャトルバスを走らせた。その会期中、シャトルバスを使ったか、シャトルバスで博物館に来た人が美術館に来たかというアンケートは取ったか。

事務局

豊田市博物館からの発着だったので、シャトルバスで博物館に来た人が美術館まで来たかどうかは分からない。しかし昨年と比較して、博物館から美術館へ足を運んでいただいたと思われる方の影響で、1割くらいは美術館の来館者が増えている印象だった。

委員

ワークショップは子どもが楽しみにしていて、親御さんたちもそれを楽しみにしているという意見が多かった。美術にそれほど興味がないような大人でも、ふらっと来て楽しめるワークショップなどはいいなと思う。例えば、豊田市博物館に来館した人が「美術館にはあまり来なかったが、行ってみよう」というように、間口が広がるといいと思う。

会長

シャトルバスはどれくらいの利用者があったか。

事務局

博物館のオープンに合わせて、臨時的にシャトルバスを走らせた。バスの乗車券と街なかで使える商品券をセットで販売した。ゴールデンウィークで豊田市博物館に 20,000 人くらいの来館者があり、そのうちの 5%程度がシャトルバスを利用した。そのうちどれくらいの方が美術館まで足を伸ばしたか、その統計はとっていない。セット券は大変好評で、街なかで使えるチケットは完売だった。

会長

今後も、豊田市博物館との連携を積極的に続けてほしい。

委員

豊田市博物館がオープンしてから、美術館の一般駐車場から隅櫓に上がって童子苑を抜けて博物館まで行ける散策コースが好評である。

地元の声としては、例えば過去の大型展の際に来館者の車が道路上にあふれ、地元住民が自宅から車が出せないほど渋滞したことがあった。博物館の建設の時にもその話をした。美術館は駅から距離がある。豊田東高校の跡地の開発に関する審議会でも、都市計画専門の大学の先生から距離があると言われた。愛知環状鉄道の美術館駅を作ってほしいという声がある。答申書には盛り込まれなかったが、議事録としては残っていると思う。大型展ではシャトルバスの運行など引き続き考えてほしい。

会長

若い学生ですら、駅から距離があると感じている。シャトルバスは、他の美術館でも実施しているところはあるが、土日だけの運行になったり、運営上難しいこともあると思うが、意見を言い続けることが大事だと思う。

委員

託児サービス、ベビーカーツアー、キッズアワーなど子育て世代向けの取組を継続してほしい。他館で同様の事例が朝日新聞で取り上げられていた。豊田市美術館の取組を新聞に売り込んでいくようなことはできないか。

事務局

新聞ではないが、芸術系の雑誌で記事として取り上げていただいた。

委員

子育て世代向けの取組は自慢できるもので、豊田市としても子育てには力を入れている。市の取組の1つのピースとして取り上げたら良いと思う。学校関連の活動についても、受入れ数がとても多い。こういった取組をサスティナブルにしていくために、こういう活動に参画したい人、アートフレンドとまではいかななくても、サポートできるボランティアはいないのか。先生が活動をリードしてくれるのもいいが、先生も忙しい。保護者だったり、地域の人を巻き込んで、育成の機会に市民も参加できるとサポートできる人が増えて持続可能になっていくの

かなと思う。

アンケートについて、今は紙で集計しているがウェブ版にしては、豊田市コンサートホールもウェブで手軽にできる。その方が集計も簡単だと思う。紙も子どもなどが書くためにあった方が良いと思うが、豊田市博物館ができて入館者が増え、どういう方が来館しているのか等データを収集するせっかくのチャンスを無駄にしないように、新しい手法を取り入れてはどうか。

事務局

ウェブアンケートも実施したことがあるが、集計数が伸びない。豊田市美術館の傾向かもしれない。紙媒体だと回収率が高いため、現在は紙に落ち着いている。

委員

ウェブアンケートがあることを知らなかった。どこでアナウンスしているか。豊田市コンサートホールだと動線上にある。出入口等に表示しておくのはどうか。

事務局

アンケート記載台に、QRコードからウェブサイト上で回答できるとご案内をしていた。

会長

QRコードを置く場所は、美術館の美しさを妨げないような場所を考える必要がある。

委員

自分が子育てしていた時には、美術館では静かにするなど、マナーを子どもにしつけて一緒に連れて行った。子どもが少なくなり子育てで行うことが増えたせいか、家庭でしつけていた基本的なマナーが少なくなっていると感じる。世界でその土地の美術館を見てきた。世界でも対応が変わってきていると感じる。今回は美術館の裏側を勉強させていただきたいと参加している。時代の変化とともにいろんなことが変わるけど、変わらないもの、大事なものは失われてはいけない。TPO、家庭でのしつけ、言葉遣いなど。それらは、世界では宗教の影響もあり、大事にされている。日本も大事にしていると思うが、今は変化についていくのが大変。

孫をいろいろなところへ連れていくが、タブレットなどインターネットに夢中で、外の世界に目がいつてない。YouTube で豊田市美術館の案内を見た。館内には来たが周りから見たことはなかったので、建物の素晴らしさを知った。高橋節郎館が好きで、そこから見える庭の眺め等が大好き。建物の素敵さ、常設展の大事さをもっとアピールしてもいい。

自分が住んでいるので、小原の和紙展の開催やワークショップで和紙作り等を行うような取組を検討してほしい。

会長

教育普及、広報、意見集約、アクセス、子育て世代や子どもへの支援、アンケートの問題、SNS 等における発信の仕方など、様々な観点から豊田市民として、あるいは委員として貴重な意見をいただいた。

以上で協議事項を終了する。